

## Sun Fire X4470 M2 サーバー

### 仮想マシンソフトウェア設置マニュアル



Part No.: E23474-01  
2011 年 6 月

Copyright © 2011 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD, Opteron, AMD ロゴ, AMD Opteron ロゴは, Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel, Intel Xeon は, Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し, SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。



リサイクル  
してください



Adobe PostScript

# 目次

---

このマニュアルの用法 v

▼ ソフトウェアとファームウェアのダウンロード vi

## 部 I 仮想マシンソフトウェアのインストール

### 1. はじめに 3

サポートされる仮想マシンソフトウェア 3

VM ソフトウェアインストールの前提条件 4

VM ソフトウェアのインストール作業の概要 5

### 2. Oracle VM のインストール 7

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール 7

インストールを開始する前に 8

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアからの Oracle VM Server のインストール 8

▼ Oracle VM Manager のインストール 9

Oracle VM のインストール後の作業 10

Oracle VM ソフトウェアの更新 10

Oracle VM リソースの管理 10

部 II	仮想マシンシステム管理者リファレンス	
A.	サポートされるインストール方法	13
	コンソール出力	13
	インストール起動メディア	15
	インストール先	18
B.	サポートされているオペレーティングシステム	19
	サポートされているオペレーティングシステム	20
C.	新規インストール時の BIOS のデフォルト設定	21
	BIOS の出荷時デフォルト設定の確認	21
	インストールを開始する前に	22
	▼ 新規インストールの BIOS 設定の表示または編集	22
	索引	25

# このマニュアルの使用法

---

この仮想マシンソフトウェアのインストールガイドでは、Oracle の Sun Fire X4470 M2 サーバーに仮想マシンソフトウェアをインストールして構成する方法について説明します。

本書は、サーバーシステムを理解しているシステム管理者、ネットワーク管理者、およびサービス技術者を対象としています。

- [v ページの「製品のダウンロード」](#)
- [vii ページの「ドキュメントとフィードバック」](#)
- [vii ページの「サポートとトレーニング」](#)

---

## 製品のダウンロード

すべての Oracle x86 サーバーとサーバーモジュール (ブレード) のダウンロードデータは My Oracle Support (MOS) にあります。MOS には、2 つのタイプのダウンロードデータがあります。

- ラックマウントサーバー、サーバーモジュール、モジュラーシステム (ブレードシャーシ)、または Network Express Module (NEM) に固有のソフトウェアリリースバンドル。これらのソフトウェアリリースバンドルには、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)、Oracle Hardware Installation Assistant、および他のプラットフォームのソフトウェアとファームウェアが含まれます。
- 複数のタイプのハードウェアで共通するスタンドアロンソフトウェア。このソフトウェアには、Hardware Management Pack と Hardware Management Connectors が含まれます。

## ▼ ソフトウェアとファームウェアのダウンロード

1. (<https://support.oracle.com>) にアクセスします。
2. My Oracle Support にサインインします。
3. ページの上部にある「Patches and Updates (パッチとアップデート)」タブをクリックします。
4. 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで、「Product or Family (Advanced Search) (製品またはファミリー (詳細検索))」を選択します。
5. 「Product? Is (製品は?)」フィールドで、完全な製品名 (たとえば、Sun Fire X4470) を入力するか、または一致する製品名の一覧が表示されるまで、製品名の一部を入力してから、該当する製品を選択します。
6. 「Release? Is (リリースは?)」プルダウンリストで、下矢印をクリックします。
7. 表示された画面で、製品フォルダアイコンの隣にある三角印 (>) をクリックし、選択肢を表示してから、該当するリリースを選択します。
8. 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで、「Search (検索)」をクリックします。  
製品ダウンロードデータのリスト (パッチとしてリストされる) が表示されます。
9. 該当するパッチ名 (たとえば、Sun Fire X4470 SW 1.1 リリース向けのパッチ 10266805) を選択します。
10. 表示された右側のウィンドウで、「Download (ダウンロード)」をクリックします。

---

## ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
Oracle のすべてのドキュメント	<a href="http://www.oracle.com/documentation">http://www.oracle.com/documentation</a>
Sun Fire X4470 M2 サーバー	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E20781-01&amp;id=homepage">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E20781-01&amp;id=homepage</a>
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19860-01&amp;id=homepage">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19860-01&amp;id=homepage</a>

このドキュメントに関するフィードバックは、次の Web サイトから送信できます。

<http://www.oraclesurveys.com/se.ashx?s=25113745587BE578>

---

## サポートとトレーニング

これらの Web サイトでは追加リソースを提供しています。

- サポート (<https://support.oracle.com>)
- トレーニング (<https://education.oracle.com>)



# 部 I 仮想マシンソフトウェアのインストール

---

この節では Oracle の Sun Fire X4470 M2 サーバーに仮想マシンソフトウェアをインストールする方法についてのトピックの一覧を示します。

説明	リンク
<b>要件。</b> インストールに関する注意事項と要件について確認するには、第 1 章を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">第 1 章概要</a></li></ul>
<b>手順。</b> Oracle VM をインストールするには、適切な章を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">第 2 章 Oracle VM のインストール</a></li></ul>
<b>参照情報。</b> これらのトピックを必要に応じて参照し、仮想マシンソフトウェアのインストールを実行または完了します。	<ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">付録 A サポートされるインストール方法</a></li><li>• <a href="#">付録 B サポートされているオペレーティングシステム</a></li><li>• <a href="#">付録 C 新規インストール時の BIOS のデフォルト設定</a></li></ul>



# 第1章

## はじめに

---

この章では、サポートされる仮想マシンソフトウェアをサーバーにインストールする方法の概要について説明します。

本章で説明するトピックは次のとおりです。

- 3 ページの「サポートされる仮想マシンソフトウェア」
- 4 ページの「VM ソフトウェアインストールの前提条件」
- 5 ページの「VM ソフトウェアのインストール作業の概要」

---

## サポートされる仮想マシンソフトウェア

Sun Fire X4470 M2 サーバーは、次の仮想マシン (Virtual Machine、VM) ソフトウェアをサポートします。

VM ソフトウェア	サポートされる最小版
Oracle VM	Release 2.2.1

Sun Fire X4470 M2 サーバー上でサポートされているすべてのオペレーティングシステムの完全な更新一覧については、Sun Fire x86 ラックマウントサーバーの Web サイトにアクセスし、Sun Fire X4470 M2 サーバーのページを参照してください。

(<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sun-x86/overview/index.html>)

# VM ソフトウェアインストールの前提条件

サーバーへの VM ソフトウェアのインストールを開始する前に、次の重要な注意事項について確認してください。

表 1-1 VM ソフトウェアのインストールに関する注意事項

要件	説明	詳細は、次を参照してください
サーバーがセットアップされ稼働している	サーバーがラックに設置されて電源が投入され、SP との通信が確立しています。	<ul style="list-style-type: none"><li>• Sun Fire X4470 M2 サーバー 設置マニュアル</li></ul>
VM ソフトウェアインストールプログラムを起動できるようにする 配備方法が設定されている	VM ソフトウェアをインストールするローカルまたはリモートによる配備方法を選択するためのガイドライン。	<ul style="list-style-type: none"><li>• 付録 A</li></ul>
Oracle VM インストールのハードウェア要件	Oracle VM では、静的 IP アドレスを設定した 2 つのシステムが必要です。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 一方のシステムには、Oracle Virtual Machine Server をインストールします。</li><li>• もう一方のシステムでは、次のいずれかの Linux オペレーティングシステムがインストールされた Oracle Virtual Machine Manager を実行します。<ul style="list-style-type: none"><li>- Oracle Enterprise Linux Release 4.5 以降</li><li>- Red Hat Enterprise Linux Release 4 以降</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• Oracle VM Server のリリースノートと Oracle VM Manager のリリースノート: (<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E15458-01&amp;id=homepage">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E15458-01&amp;id=homepage</a>)</li></ul>
RAID ボリュームの要件	起動ドライブを RAID 構成の一部にする場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に、ドライブで RAID ボリュームを設定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• オプションの SGX-SAS6-R-INT-Z ホストバスアダプタを使用している場合、LSI 統合 RAID コントローラの設定ユーティリティを使用して、RAID ボリュームを設定する必要があります。手順については、『LSI MegaRAID SAS ソフトウェアユーザーズガイド』を参照してください。</li><li>• オプションの SGX-SAS6-INT-Z HBAを使用している場合、BIOS 構成ユーティリティを使用して、RAID ボリュームを設定する必要があります。手順については、『Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA Internal Installation Guide』を参照してください。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 『LSI MegaRAID SAS ソフトウェアユーザーズガイド』、次の Web サイトで入手可能: (<a href="http://www.lsi.com/support/sun/">http://www.lsi.com/support/sun/</a>)</li><li>• 『Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA Internal Installation Guide』</li></ul>

表 1-1 VM ソフトウェアのインストールに関する注意事項 (続き)

要件	説明	詳細は、次を参照してください
OS の新規インストール時の BIOS 設定の検証	VM ソフトウェアをインストールする前に、BIOS が出荷時のデフォルトプロパティに設定されていることを確認するようにしてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">付録 C</a></li> </ul>
OS のインストールに関する最新情報とアップデートの入手	『Sun Fire X4470 M2 サーバ―ご使用にあたって』および VM ソフトウェアのリリースノートを参照して、サポートされるソフトウェアとアップデートに関する最新情報を入手します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Sun Fire X4470 M2 サーバ―ご使用にあたって</li> <li>• Oracle VM 2.2.1 のリリースノート: (<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E15458-01&amp;id=homepage">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E15458-01&amp;id=homepage</a>)</li> </ul>

## VM ソフトウェアのインストール作業の概要

仮想マシンソフトウェアをインストールするには、次に示す手順をすべて順番に実行します。

1. VM ソフトウェアをインストールするためのメディアを入手します。
  - Oracle VM インストールプログラムの ISO イ次の節で説明する手順に従って、VM ソフトウェアをインストールします。メージは、次の Web サイトからダウンロードできます。( <http://www.oracle.com/virtualization> )

---

注 – VM ソフトウェアの ISO イメージを使用して、リモートインストールを実行するか、インストール CD または DVD を作成できます。

---

2. [付録 A](#) を参考にして、VM ソフトウェアのインストールを配備するためのインストール方法を選択し設定します。
3. 次の節で説明する手順に従って、VM ソフトウェアをインストールします。
  - [7 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール」](#)
4. 次の節の説明に従って、適切なインストール後の作業を確認および実行します。
  - [10 ページの「Oracle VM のインストール後の作業」](#)



## 第2章

# Oracle VM のインストール

---

この章では、Oracle VM ソフトウェアのインストールに必要な手順の概要を示します。

本章で説明するトピックは次のとおりです。

- [7 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール」](#)
  - [10 ページの「Oracle VM のインストール後の作業」](#)
- 

## ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール

この節の手順では、Oracle VM ソフトウェアをインストールする手順の概要を示します。この手順では、次のいずれかのソースから VM のインストールメディアを起動することを前提としています。

- Oracle VM 2.2.1 CD または DVD メディアセット (内蔵または外付けの CD または DVD)
  - Oracle VM 2.2.1 ISO ソフトウェアイメージ (ネットワークリポジトリ)
- 

注 – Oracle VM の ISO イメージを使用して、リモートインストールを実行するか、インストール CD または DVD を作成できます。

---

Oracle VM ソフトウェアをインストールするには、次の手順を参照してください。

- [8 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアからの Oracle VM Server のインストール」](#)
- [9 ページの「Oracle VM Manager のインストール」](#)

## インストールを開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしている必要があります。

- Oracle VM Server および Manager のインストールに適用される注意事項をすべて満たしている。詳細は、[第 1 章](#)を参照してください。
- Oracle VM のドキュメントを入手している。このドキュメントを、このガイドで説明するインストール手順と一緒に使用することをお勧めします。

Oracle VM のドキュメントは次の Web サイトからダウンロードできます。  
(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E15458-01&id=homepage>)

### ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアからの Oracle VM Server のインストール

1. Oracle VM Server のインストールメディアを起動できることを確認します。
  - **CD/DVD を使用する場合。** ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、Oracle VM Server メディアの起動ディスクを挿入します。
  - **ISO イメージを使用する場合。** ISO イメージが使用可能であり、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションで起動ディスクのイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「Devices (デバイス)」 --> 「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」)。

インストールメディアの設定方法については、[付録 A](#) を参照してください。

2. サーバーの電源を入れ直します。

たとえば、次のように表示されます。

  - **Oracle ILOM Web インタフェースで、**「Remote Control」 --> 「Remote Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」オプションを選択します。
  - **ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。**
  - **サーバー SP の Oracle ILOM CLI で、次のように入力します。reset /SYS**

---

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

---

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、Oracle VM Server のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。

「Please Select Boot Device (起動デバイスを選択してください)」メニューが表示されます。

4. 「Please Select Boot Device (起動デバイスを選択してください)」メニューで、最初の起動デバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択し、Enter キーを押します。  
「Boot Device (起動デバイス)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。  
数秒後、Oracle VM Manager インストールプログラムのスプラッシュ画面が表示されます。
5. 指示に従って、Oracle VM Server および Oracle VM Agent をインストールします。  
ここで、Oracle VM インストールプログラムは Oracle VM Server と Oracle VM Agent をインストールします。
6. インストール中に設定したパスワードを使用して、Oracle VM Server に root ユーザーとしてログインします。

---

注 – Oracle VM のインストールには 2 つのパスワードが必要です。1 つは VM Server の root アカウント用、もう 1 つは VM エージェント用のパスワードです。必要な場合は、Oracle VM Server のインストールを完了する方法について、『Oracle VM Server Installation Guide』を参照してください。

---

7. 次のいずれかの操作を実行します。
  - Oracle VM Server を管理するための Oracle VM Manager が設定されていない場合は、Oracle VM Manager をインストールする必要があります。  
Oracle VM Manager をインストールするには、9 ページの「[Oracle VM Manager のインストール](#)」を参照してください。
  - Oracle VM Server を管理するための Oracle VM Manager が設定されている場合は、10 ページの「[Oracle VM のインストール後の作業](#)」に進みます。

## ▼ Oracle VM Manager のインストール

1. Oracle VM Manager をインストールするシステムで、サポートされている Linux オペレーティングシステムを起動します。
2. Oracle VM Manager のインストールメディアがマウントされていることを確認します。
3. 次のスクリプトを root ユーザーとして実行します。  

```
# sh runInstaller.sh
```

4. 指示に従って Oracle VM Manager をインストールします。  
Oracle VM Agent のパスワードを使用して、管理インタフェースにログインする必要があります。  
必要な場合は、Oracle VM Manager のインストールを完了する方法について、『Oracle VM Server Installation Guide』を参照してください。
5. Oracle VM Manager のインストール完了後に、次の手順を実行します。
  - a. Web ベースの Oracle VM 管理インタフェースに管理者としてログインします。  
Oracle VM Manager のインストール中に作成したパスワードを入力する必要があります。
  - b. Web 管理インタフェースのオプションを使用して、サーバープールの作成および管理と、仮想マシンの作成、設定、および管理を行います。
6. 10 ページの「Oracle VM のインストール後の作業」の説明に従って、適切なインストール後の作業を確認および実行します。

---

## Oracle VM のインストール後の作業

Oracle VM ソフトウェアのインストールを完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、使用しているシステムで該当する作業を必要に応じて実行します。

- 10 ページの「Oracle VM ソフトウェアの更新」
- 10 ページの「Oracle VM リソースの管理」

## Oracle VM ソフトウェアの更新

Oracle VM のインストールメディアには、最新バージョンのソフトウェアが含まれていない場合があります。必要な場合は、最新のソフトウェアリリースを利用して Oracle VM ソフトウェアを更新します。ダウンロード手順については、次の Web サイトを参照してください。

(<http://www.oracle.com/virtualization>)

## Oracle VM リソースの管理

Oracle VM リソースの設定、アクセス、および管理を行う方法については、次の Web サイトで Oracle VM のドキュメントライブラリを参照してください。

(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E15458-01&id=homepage>)

## 部 II 仮想マシンシステム管理者リファレンス

---

必要に応じて次のシステム管理者リファレンスを参照し、仮想マシンソフトウェアのインストールを実行または完了してください。

説明	リンク
仮想マシンソフトウェアインストールプログラムを配備するためのインストール環境の選択およびセットアップ手順	<a href="#">付録 A</a>
本書の発行時点に Sun Fire X4470 M2 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの完全なリスト	<a href="#">付録 B</a>
仮想マシンソフトウェアのインストールを実行する前に、BIOS のデフォルトプロパティが設定されていることを確認する手順	<a href="#">付録 C</a>



## 付録 A

# サポートされるインストール方法

---

サーバーにソフトウェアをインストールする最適な方法を決定するには、この付録で説明している次の内容を検討してください。

- [13 ページの「コンソール出力」](#)
- [15 ページの「インストール起動メディア」](#)
- [18 ページの「インストール先」](#)

---

## コンソール出力

[表 A-1](#) に、オペレーティングシステムをインストールする際の出力と入力を表示するためのコンソールを示します。

表 A-1 OS インストールを実行する際のコンソールオプション

コンソール	説明	セットアップ要件
ローカルコンソール	<p>ローカルコンソールをサーバー SP に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。</p> <p>ローカルコンソールの例として、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シリアルコンソール</li> <li>VGA コンソール (USB キーボードおよびマウスを使用)</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ローカルコンソールをサーバーに接続します。 詳細は、『Sun Fire X4470 M2 サーバー設置マニュアル』の「サーバーへのケーブルの接続」を参照してください。</li> <li>Oracle ILOM プロンプトで、Oracle ILOM ユーザー名とパスワードを入力します。</li> <li>シリアルコンソール接続の場合のみ、<b>start /SP/console</b> と入力して、ホストのシリアルポートとの接続を確立します。 ビデオ出力がローカルコンソールに自動的にルーティングされます。 サーバー SP との接続の確立方法については、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメントライブラリを参照してください。</li> </ol>
リモートコンソール	<p>サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うことができます。</p> <p>リモートコンソールの例には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続</li> <li>シリアルコンソールを使用した SSH クライアント接続</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>サーバー SP の IP アドレスを確立します。 詳細は、『Sun Fire X4470 M2 サーバー設置マニュアル』を参照してください。</li> <li>リモートコンソールとサーバー SP の間の接続を確立します。 <b>Web ベースのクライアント接続の場合は、次の手順を実行します。</b> 1) Web ブラウザにサーバー SP の IP アドレスを入力します。2) Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。3) Oracle ILOM リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。4) 「Device」メニューでデバイスの切り替え (マウス、キーボードなど) を有効にします。 <b>SSH クライアント接続の場合は、次の手順を実行します。</b> 1) シリアルコンソールからサーバー SP への SSH 接続を確立します(<code>ssh root@ILOM_SP_ipaddress</code>)。2) Oracle ILOM コマンドラインインタフェースにログインします。3) <b>start /SP/console</b> と入力してサーバーから SSH クライアントへシリアル出力をリダイレクトします。 ILOM SP へのリモート接続の確立や ILOM リモートコンソールの使用については、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメントライブラリを参照してください。</li> </ol>

# インストール起動メディア

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースを起動します。表 A-2 に、サポートされるメディアソースと、各ソースに必要なセットアップ要件を示します。

表 A-2 OS インストール実行のための起動メディア

インストールメディア	説明	セットアップ要件
ローカル起動メディア	<p>ローカル起動メディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。</p> <p>サポートされる OS のローカル起動メディアソースには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーディスクドライブメディア</li></ul>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 使用しているサーバーに組み込み型ストレージデバイスがない場合は、サーバーの前面または背面パネルに適切なストレージデバイスを接続します。</li><li>2. ローカルデバイスをサーバーに接続する方法については、『Sun Fire X4470 M2 サーバー設置マニュアル』の「サーバーへのケーブルの接続」を参照してください。</li></ol>

表 A-2 OS インストール実行のための起動メディア (続き)

インストールメディア	説明	セットアップ要件
リモート起動メディア	<p>リモートメディアでは、ネットワークを介してインストールを起動する必要があります。ネットワークインストールは、リダイレクトされた起動ストレージデバイスか、Pre-boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク上にインストールをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。</p> <p>サポートされる OS のリモートメディアソースには、次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア</li> <li>• CD/DVD-ROM の ISO インストールイメージ、および該当する場合はフロッピーの ISO デバイスドライバメディア</li> <li>• 自動インストールイメージ (PXE 起動が必要)</li> </ul>	<p>リモートストレージデバイスから起動メディアをリダイレクトするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 起動メディアを、次のようなストレージデバイスに挿入します。           <p><b>CD/DVD-ROM の場合</b>、組み込み型または外付けの CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。</p> <p><b>CD/DVD-ROM ISO イメージの場合</b>、ISO イメージがネットワーク共有された場所ですぐに利用できることを必ず確認してください。</p> <p><b>デバイスドライバフロッピーメディア (該当する場合) の場合</b>、フロッピーメディアを外付けのフロッピードライブに挿入します。</p> <p><b>デバイスドライバフロッピー ISO イメージの場合</b>、ISO イメージ (該当する場合) がネットワーク共有された場所または USB ドライブ上ですぐ利用できることを確認する必要があります。</p> </li> <li>2. サーバーの Oracle ILOM SP に対する Web ベースのクライアント接続を確立し、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動します。詳細は、表 A-1 に示す Web ベースのクライアント接続に関するセットアップ要件を参照してください。</li> <li>3. Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションの「Device」メニューで、次のように起動メディアの場所を指定します。           <p><b>CD/DVD-ROM 起動メディアの場合</b>は、「CD-ROM」を選択します。</p> <p><b>CD/DVD-ROM ISO イメージ起動メディアの場合</b>は、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を選択します。</p> <p><b>フロッピーデバイスドライバ起動メディアの場合</b>は、「Floppy (フロッピー)」を選択します (該当する場合)。</p> <p><b>フロッピーイメージのデバイスドライバ起動メディアの場合</b>は、「Floppy Image」を選択します (該当する場合)。</p> </li> </ol> <p>Oracle ILOM リモートコンソールの詳細は、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメントライブラリを参照してください。</p>

表 A-2 OS インストール実行のための起動メディア (続き)

インストールメディア	説明	セットアップ要件
リモート起動メディア (続き)	<p>注 - 自動インストールイメージを使用すると、複数のサーバーで OS のインストールを実行できます。自動イメージを使用すると多くのシステムで設定を統一できます。</p> <p>自動インストールでは、Pre-boot eXecution Environment (PXE) 技術を使用し、オペレーティングシステムがインストールされていないクライアントをリモートで起動して、自動インストールサーバーからオペレーティングシステムをインストールします。</p>	<p>PXE を使用してインストールを実行するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. PXE 起動経由でインストールをエクスポートするようにネットワークサーバーを設定します。</li> <li>2. OS インストールメディアを PXE 起動で利用できるようにします。 自動 OS インストールイメージを使用する場合は、次のような自動 OS インストールイメージを作成する必要があります。 - Solaris JumpStart イメージ - RHEL KickStart イメージ - SLES AutoYaST イメージ - Windows WDS イメージ インストールのセットアッププロセスを自動化する方法については、オペレーティングシステムベンダーのドキュメントを参照してください。</li> <li>3. インストールメディアを起動するには、一時起動デバイスとして PXE 起動インタフェースカードを選択します。</li> </ol>

# インストール先

表 A-3 に、オペレーティングシステムのインストールに使用できる、サポートされるインストール先を示します。

表 A-3 OS インストールのインストールターゲット

インストール先	説明	セットアップ要件	サポートされる OS
ローカルハードディスクドライブ (Hard Disk Drive, HDD) または 半導体ドライブ (Solid State Drive, SSD)	サーバーに取り付けられているハードディスクドライブまたは半導体ドライブはどれも、オペレーティングシステムのインストール先として選択できます。	HDD または SSD がサーバーに正しく取り付けられていて、電源が入っていることを確認します。 HDD または SSD の設置と電源投入については、サーバーに付属のインストールガイドまたはサービスマニュアルを参照してください。	付録 B に示す、サポートされているすべてのオペレーティングシステム。
ファイバチャネル (Fibre Channel, FC) Storage Area Network (SAN) デバイス	ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (Host Bus Adapter, HBA) が搭載されているサーバーでは、外付けの FC ストレージデバイスにオペレーティングシステムをインストールできます。	<ul style="list-style-type: none"><li>サーバーに FC PCIe HBA が正しく設置されていることを確認します。サーバーへの PCIe HBA オプションの取り付け方法については、『Sun Fire X4470 M2 サーバースerviceマニュアル』を参照してください。</li><li>ホストでストレージを認識できるように SAN を設置および設定します。手順については、FC HBA の付属ドキュメントを参照してください。</li></ul>	付録 B に示す、すべてのオペレーティングシステム。

## 付録 B

# サポートされているオペレーティングシステム

---

この付録の表 B-1 では、本書の発行時点で、Sun Fire X4470 M2 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムを示します。

Sun Fire X4470 M2 サーバー上でサポートされているオペレーティングシステムの最新リストについては、Sun Fire x86 ラックマウントサーバーの Web サイトにアクセスし、Sun Fire X4470 M2 サーバーのページを参照してください。

(<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sun-x86/overview/index.html>)

# サポートされているオペレーティングシステム

Sun Fire X4470 M2 サーバーは、次のオペレーティングシステムまたはその後継のリリースのインストールおよび使用をサポートしています。

表 B-1 サポートされているオペレーティングシステム

オペレーティングシステム	サポートされているバージョン	追加情報
Windows	<ul style="list-style-type: none"><li>• Microsoft Windows Server 2008 SP2, Standard Edition (64 ビット)</li><li>• Microsoft Windows Server 2008 SP2, Enterprise Edition (64 ビット)</li><li>• Microsoft Windows Server 2008 SP2, Datacenter Edition (64 ビット)</li><li>• Microsoft Windows Server 2008 R2, Standard Edition (64 ビット)</li><li>• Microsoft Windows Server 2008 R2, Enterprise Edition (64 ビット)</li><li>• Microsoft Windows Server 2008 R2, Datacenter Edition (64 ビット)</li></ul>	Windows オペレーティングシステム用 Sun Fire X4470 M2 サーバー設置マニュアル
Linux	<ul style="list-style-type: none"><li>• Oracle Unbreakable Kernel for Linux</li><li>• Oracle Enterprise Linux 5.5 (64 ビット)</li><li>• SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP1 (64 ビット)</li><li>• Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.5 (64 ビット)</li><li>• RHEL 6.0 (64 ビット)</li></ul>	Sun Fire X4470 M2 サーバー Linux オペレーティングシステム設置マニュアル
Oracle Solaris	<ul style="list-style-type: none"><li>• Oracle Solaris 09 10/10</li></ul>	Sun Fire X4470 M2 サーバー Oracle Solaris オペレーティングシステム設置マニュアル
仮想マシンソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"><li>• Oracle Virtual Machine 2.2.1</li></ul>	Sun Fire X4470 M2 サーバー仮想マシンソフトウェア設置マニュアル

# 新規インストール時の BIOS のデフォルト設定

---

ディスクドライブに新しいオペレーティングシステムをインストールする場合は、オペレーティングシステムのインストールを実行する前に、次の BIOS 設定が適切に設定されていることを確認するようにしてください。

- システム時刻
  - システム日付
  - 起動順序
- 

## BIOS の出荷時デフォルト設定の確認

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて BIOS 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティで変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集するだけでなく、BIOS の起動中に F8 キーを使用して、一時起動デバイスを指定できます。F8 キーを使用して一時起動デバイスを設定した場合、この変更は現在のシステム起動のみで有効です。一時起動デバイスで起動したあとは、F2 キーで指定した常時起動デバイスが有効になります。

## インストールを開始する前に

BIOS 設定ユーティリティーにアクセスする前に、次の要件を満たしていることを確認します。

- サーバーにハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD) が搭載されている。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されている。詳細は、『Sun Fire X4470 M2 サーバーサービスマニュアル』を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されている。詳細は、[14 ページの「OS インストールを実行する際のコンソールオプション」](#)を参照してください。

### ▼ 新規インストールの BIOS 設定の表示または編集

#### 1. サーバーの電源をリセットします。

サーバーの電源をリセットするには、次の手順を実行します。

- **Oracle ILOM Web インタフェース**で、「Remote Control」->「Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **ローカルサーバーを使用する場合**、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM CLI** で、`reset /SYS` と入力します。

BIOS 画面が表示されます。

#### 2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティーが表示されます。

#### 3. 出荷時のデフォルト値に設定するために、次の手順を実行します。

##### a. F9 キーを押すと、最適な出荷時のデフォルト設定が自動的に読み込まれます。

メッセージが表示され、「OK」を選択してこの操作を続けるか、「CANCEL (キャンセル)」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。

##### b. メッセージで「OK」を強調表示して、Enter を押します。

BIOS 設定ユーティリティー画面が表示され、システム時刻フィールドの最初の値でカーソルが強調表示されます。

4. BIOS 設定ユーティリティで次の手順を実行して、システム時刻またはシステム日付に関する値を編集します。
  - a. 変更する値を強調表示します。

上下の矢印キーを使用して、システムの時刻と日付の選択を変更します。
  - b. 強調表示されたフィールドの値を変更するには、次のキーを使用します。
    - プラス (+) を押すと、表示されている現在の値が増加します。
    - マイナス (-) を使用すると、現在表示されている値が減少します。
    - Enter キーを押すと、カーソルが次の値フィールドに移動します。
5. 起動設定にアクセスするには、「Boot (起動)」メニューを選択します。

「Boot Settings (起動設定)」メニューが表示されます。
6. 「Boot Settings (起動設定)」メニューで、下矢印キーを使用して「Boot Device Priority (起動デバイスの優先順位)」を選択し、Enter キーを押します。

「Boot Device Priority (起動デバイスの優先順位)」メニューが表示され、認識されている起動デバイスの優先順位が示されます。リストの先頭のデバイスが、起動の優先度をもっとも高いデバイスです。
7. 「Boot Device Priority (起動デバイスの優先順位)」メニューで次の手順を実行して、リストの最初の起動デバイスエントリを編集します。
  - a. 上下矢印キーを使用してリストの先頭のデバイスを選択し、Enter キーを押します。
  - b. 「Options (オプション)」メニューで、上下矢印キーを使用してデフォルトの常時起動デバイスを選択し、Enter キーを押します。

「Boot Device Priority (起動デバイスの優先順位)」メニューおよび「Options (オプション)」メニューに表示されるデバイス文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列の形式です。

---

注 – 変更する各デバイス項目に対して手順 7a および 7b を繰り返して、リスト内のほかのデバイスの起動順を変更できます。

---

8. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。

または、「Exit (終了)」メニューで「Save (保存)」を選択して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了することもできます。変更を保存して設定を終了することを確認するメッセージが表示されます。メッセージのダイアログで「OK」を選択して、Enter キーを押します。

---

注 – Oracle ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 キーはローカル OS にトラップされます。コンソールの一番上で使用できる「Keyboard (キーボード)」ドロップダウンメニューに一覧表示される F10 オプションを使用してください。

---



# 索引

---

## B

### BIOS

出荷時デフォルト設定の確認, 21

## O

### Oracle VM

VM Manager のインストール手順, 9

VM Server のインストール手順, 8

インストール後の作業, 10

メディアを使用したインストールの手順, 7

## い

インストール起動メディア, 15

インストール先, 18

## お

### オペレーティングシステム

サポート, 20

## き

起動メディア, 15, 16

## さ

サポートされているオペレーティングシステム

最新リストの URL, 19

## は

ハードディスクドライブ、インストールターゲットとして, 18

半導体ドライブ、インストールターゲットとして, 18

## り

リモートコンソール、OS インストールに使用, 14

## ろ

ローカルコンソール、OS インストールに使用, 14

